



TITLE:

財政統計の地方比較

AUTHOR(S):

汐見, 三郎

CITATION:

汐見, 三郎. 財政統計の地方比較. 経済論叢 1939, 48(2): 430-436

ISSUE DATE:

1939-02-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/131205>

RIGHT:

經濟學叢論 第四十八卷第二號 昭和十四年二月一日發行
大正十四年六月二十一日第三編郵政特准掛號

京都市帝國大學經濟學會 經濟叢論

第十四卷(第二號)

昭和十四年二月

論叢

貨幣的利子論の吟味……………文學博士 高田保馬
中小都市における商店街の構成……………經濟學博士 谷口吉彥

時論

最近に於ける通貨收縮性の遲緩……………經濟學博士 小島昌太郎
事變下に於ける漁村對策……………經濟學博士 鯉川虎三

研究

豫想の構造の分析……………經濟學士 青山秀夫
莫大小業の生産形態……………經濟學士 堀江英一
カルブンの利子と自然法……………經濟學士 澤崎堅造
經營分析における比較の意義と形態……………經濟學士 岡部利良

說苑

支那の村落……………經濟學士 宮本又次
財政統計の地方比較……………經濟學博士 汐見三郎

附錄

彙報
外國雜誌論題

(禁轉載)

財政統計の地方比較

汐見 三郎

一 財政統計の發達

財政統計は最近に至り目ざましい發達を遂げた。これ國家行動範圍の擴大に伴ひ國家の財政活動が經濟生活に占むる地位が重要となつた爲めである。

國家の財政活動は國家直接の財政活動と地方公共團體の財政活動との二つとする事が出来る。國家の財政活動と地方公共團體の財政活動とは之が背景をなす財界の側よりも觀察する事が出来るが、矢張り國家地方團體の方面に於て研究するのが最も容易である。これ財政統計が國家統計又は地方統計と云ふ官廳統計として發達した所以である。

財政統計は決して新らしき產物でなく、相當に古い歴史を有してゐる。併し過去の財政統計は精々、國家財政又は地方財政の單なる見積り又は記録たるに止ま

り大した意義を有たなかつたのである。しかも財政に關する數字は國政の祕密事項に屬するものとして一般には公けにせられなかつたのである。憲法政治の發達と共に租税の協賛と豫算の議定とが議會の重要な職能となり、茲に豫算を公開して財政數字を明かにする必要に迫られたのである。茲に財政統計は格段の進歩を遂げて今日に至つてゐる。しかし何分にも財政統計の重要部分は官廳統計であるから、やゝもすれば形式的方面に進歩し實質的方面に缺くる所あるを免れないのである。

財政統計の研究には種々の問題があるが、地方別研究は其の重要なものゝ一つであらう。特に我國は内地財政の地方別研究のみならず、更に外地を含み更に日滿支の經濟ブロックを通じ各種の地方別研究を進める必要に迫られてゐる。

最近入手の Finanzarchiv に ユーストック (Dr. Paul Jostock) の論文 (Probleme des regionalen Vergleichs in der Steuer- und Finanzstatistik) が發表せられてゐる。恰も

財政統計特に租税統計の地方別研究を試みてゐるのである。其の内容を分ちて「地方別の標準」「経費統計の地方比較」「租税負擔の地方比較」「地方比較の方法」「地方別研究と立地論」との五つとしてゐる。筆者は専ら獨逸の事情を明かにしてゐるが、茲には日本を中心としたる財政統計の地方別研究を試みる。

項を分ちて「地方別研究の必要」と「経費統計の地方別」と「租税統計の地方別」の三つとする。

二 地方別研究の必要

經濟發達の初期にあつては各地方毎に獨立した經濟生活が營まれ、其等の地方を單位とした自主的の財政が行はれてゐたのである。従つて當時に於ける財政統計は直ちに地方の財政事情を反映してゐるのであつて別に新らしく地方別研究を試みると云ふ必要がなかつたのである。然るに經濟生活が國家を中心として營まれる様になると、各地方を單位とする地方財政の外に國家全體を單位とする國家財政が發達して來たのである。

否、寧ろ國家財政が地方財政を壓する勢を示してゐる。特に最近の趨勢としては地方財政の體系と國家財政の體系との外に兩者を繋ぐ新たな體系として地方財政調整交付金が現れて來てゐる。かうなると地方財政が財政の全部又は重要部分であつた時代と異り、國家全體が單位となり地方に割り切れない財政が出現して來るのである。その結果として地方によつて租税の負擔を異にし又は國家經費の放下の分量を異にする事が當然に起つて來るのである。此等の點は財政統計の地方比較を行ふ事によつて改められるのである。これ國家財政統計の地方比較を試みる所以である。

財政統計の地方比較を行ふ爲めには、地方の單位が出来るだけ小さく分類せられねばならぬ。此の要求に最もよくかなつてゐるのは市町村財政統計であらう。勿論、市財政を區に細分し町村財政を部落に分析すれば最小單位を得る譯であるが、普通には其れまでに掘下げる必要がなからう。道府縣財政統計にあつては、單位が大きくなるから、市町村の分類を施す爲めには

加工を必要とする。更に國家財政統計については市町村の分類は愚か、道府縣の分類をも施し得ない場合があるから、地方比較に相當の困難を伴ふのである。

財政統計の地方比較が問題となるのは市町村財政統計よりも道府縣財政統計であり、更に國家財政統計である。試みに國家財政統計について見るに、各省それぞれ區劃の大小が異なる地方廳を有し一致しないのを原則としてゐる。現に同じ省に於ても部局の如何により地方單位を異にしてゐるのである。大藏省を例にとると、主税局は東京、大阪、札幌、仙臺、名古屋、廣島、熊本の七稅務監督局を設け更に三百六十の稅務署を置き、國民貯蓄獎勵局は東部地方（三重縣、岐阜縣及石川縣以東の地域）と西部地方（和歌山縣、奈良縣、滋賀及及福井縣以西の地域）とを分ち、專賣局は東京、水戸、宇都宮、高崎、郡山、仙臺、札幌、名古屋、金澤、大阪、岡山、廣島、坂出、徳島、福岡、熊本、鹿児島、十七地方專賣局を有してゐる。同じ省で部局の地方別が異つてゐるのは相當の理由のある事であらうが、財政統

計の地方比較を行ふには相當の困難を伴ふ結果となる。大藏省統計に現はれてゐる地方單位の最も小なるものは稅務署である。而して其の稅務署の單位は必ずしも市町村と一致しないのである。

國家財政の發達と共に財政統計の地方比較を行ふ必要が増したのであるが、而も地方比較を行ふに當り共通的單位を發見するに困難を感じる次第である。以下國家財政統計を主として地方比較の問題を明かにしたい。

三 經費統計の地方別

租稅統計は納稅地別に之を區別する事が出來、又納稅地によつて擔稅地を推定する事が出來るのであるが經費統計に至つては趣を異にしてゐる。

經費を分つて人件費と物件費とする事が出來る。物件費については、市町村財政統計に於ても果して經費支出により増加購買力が其の市町村内に吸收せられてゐるか又は他の市町村の購買力を増す結果となるか不

明である。況んや道府縣の經費が市町村間に如何に配分せられるかは一層不明であり、更に國家經費が道府縣市町村の購買力に如何に影響するかに至つては困難なる問題である。但し小學校教員俸給分擔金八千五百萬圓、臨時地方財政補給金一億三千萬圓等の各種の補助金及び人件費については、市町村經費統計はもとより國家經費統計、道府縣經費統計にあつても各種の地方比較を試みる事が出来るのである。

我國の財政の幅を昭和十三年度について見るに、平時財政として國家經費六十一億圓（一般會計三十五億圓に三十八特別會計を加ふ）地方經費十七億圓（國家經費との重複部分を除く）合計七十八億圓となり、更に戰時財政として臨時軍事費特別會計追加豫算の經費が約四十九億圓によつてゐる。此等を合計すると、我が財政の幅は百二十七億圓となる。即ち百二十七億圓の中で國家經費が百十億圓、道府縣經費が五億圓、市町村經費が十二億圓となつてゐる。要するに、市町村の區別を明かにする事が出来る市町村經費は僅かに九パーセント

財政統計の地方比較

強であつて、道府縣經費は四パーセント弱を占め、残りの八十七パーセントは地方比較の行ひ難い國家經費である。

我國現下の財政經濟の最も大なる問題の一は膨脹せる國家經費を地方的に如何に配分すべきか、而も如何にせば地方的に副作用なからしむるを得るかに存してゐる。その目的を達する爲めには、第一に國家經費の支出による購買力の増加をなるべく一地方に偏せしめないと共に、第二に購買力の増したる地方に貯蓄を奨励して購買力を吸収し、第三に購買力の不足する所には補助金其他の手段により適當なる調節を試みねばならぬ。

かくの如く經費統計の地方別研究は至難の問題であるに拘らず、萬難を排して之を行はねばならぬ。特に我國の現在の如く國家經費の膨脹せる場合には國家經費の行き先きを地方的に見定める必要あり、國家經費の地方比較を試みる必要がある。

四 租税統計の地方別

經費統計は人件費又は各種補助金について地方別研究が行はれ易いのであるが、他の方面に於ては研究の困難なる事情が存してゐる。之に反し、租税統計に於ては納税地が明瞭となつてゐるから、納税地より擔税地が推定せられる限り、容易に地方別比較を試みる事が出来る。

租税を大別して收得税と流通税と消費税とにする事が出来るが、地方比較を最も行ひ易いのは收得税であり、最も行ひ難いのは消費税であり、流通税は兩者の中間に位してゐる。消費税は關税と國內消費税とに分れるが、其の大部分は納税者より擔税者に轉嫁せられるのであるから、事實の上に於て地方別研究は不可能と云つてもよい。

主税局統計年報書は租税負擔額表（戸數、人口、內國税、府縣稅、市町村稅）を監督局別、道府縣別に分つてゐるが、これには流通税と消費税とが含まれてゐるから、地方比較に適しない。寧ろ主税局統計年報書の直接稅負擔額表の方が各地方の租税負擔の事情を適

切に示してゐる。調査項目は租税負擔額表と大體同じであつて、戸數、人口、直接國税、府縣稅、市町村稅に分れてゐるが、監督局別の外に道府縣別、市郡別の數字を掲げ、特に東京市、大阪市、京都市については區まで細分してゐる。尙、稅務監督局統計年報書は同様の數字を稅務署別に明かにしてゐる。

かくの如く收得稅統計については地方比較が行はれてゐるが、流通税と消費税の統計は納税地のみが明かにせられ擔税關係の地方比較を行ひ難いのである。茲に注目すべきは、大阪稅務監督局の稅務統計書が昭和十年度まで清酒消費高の統計を發表してゐた事である。即ち大阪稅務監督局は管内の各府縣及び各稅務署管内を單位として、地方別清酒消費高を計算してゐる。消費高の數字は、「持越高」「輸移入」「製造高」の合計より「輸移出」「原料用其他免稅石高」「火入其他缺減高」「年度末現在高」の合計を差引き、之を得たものである。尙、各地方の清酒消費高を人口に關係せしめて「一人當り消費高」を調べてゐる。

大都會の租稅負擔と中都市の租稅負擔と農山漁村の租稅負擔とが如何なる關係にあるかの問題は、標本的には家計調査より推測する事が出来るが、包括的には此種の租稅統計により研究する事となつてゐる。

以上は、租稅負擔額の地方比較の統計であるが、課稅物件を地方別に調査する事によつて得る所が少くない。所得分配のペレト線の地方的差異、國民所得構成の地方色、土地賃貸價格及び家屋賃貸價格の地方別等は單に財政統計としてのみならず財界統計として意義を有するものである。租稅が我等の經濟生活の全面に及ぶに隨ひ租稅統計の地方別研究は益々必要を加へて來る。

五 其他の問題

以上、財政統計の地方比較を行ふに當り、「經費統計の地方別」と「租稅統計の地方別」につき述べたのであるが、公債統計の地方別の問題も亦重要である。特に大藏省が國民貯蓄獎勵局を設けて國債の消化力の涵養

をはかつてゐる現在に於ては問題である。然し國債の大部分は無記名證券であり加ふるに國債を消化する大部分は金融機關であるから、之が地方別研究を試みる事は頗る困難である。何分にも臨時軍事費特別會計の財源の大部分が國債よりなつてゐる場合であるから、何所の地方で國債が多く消化せられてゐるか云ふ問題は何所の地方に國家經費が多く支出せられ購買力を増してゐるか云ふ問題と關連して我國經濟界の實相を明かにするものである。かく考へると、財政統計は經費統計、租稅統計、公債統計と切離して之を地方的に研究すると共に財政の動き全體を經費統計と收入統計との全面にわたり各地方別に捕捉すると云ふ行き方も之を行ふ必要がある。

財政統計の地方比較を試みるに當り最も大なる問題は、何としても地域と人口との二つである。各地方に住んでゐる人が如何なる財政生活を送つてゐるか、即ち國家財政地方財政の經費が支出せられてゐる事によつて其の地方の住民の購買力に如何なる影響が加はつ

てゐるか、國家及び地方團體に其の地方の住民が幾許の租税を納付し又は負擔してゐるか、國債地方債の發行に際し其の地方の住民は如何なる程度まで直接に又は金融機關を通じて間接に公債の消化につとめてゐるかと云ふ事が問題の中心である。従つて地域と人口との規定が前提條件となる。

地域については道府縣市町村の行政區劃を一應は採用する事となり其れ以外に適切なるものを發見し難いのである。併しかくの如き行政區劃は必ずしも財政生活の規定する經濟區劃と一致しないのである。又大都市の市域擴張に伴ひ同一都市でも其の内容を異にし従つて過去十數年の市民の財政生活の變遷と云ふが如き問題を解決するに當つては事を慎重に運ぶ必要がある如何なる地域を財政統計の基準にとるか、又は相當永い期間の財政統計の地方比較を行ふに當り如何なる修正を加へるかを決定せねばならぬ。

人口については普通は國勢調査人口が用ひられてゐる。國勢調査人口は深夜の寢靜まつた人口を示し活動

してゐる晝間の人口と必ずしも一致せず従つて財政統計に不適當なる場合を見受けるのである。又國勢調査は五年毎又は十年毎に行はれ、五年の間又は十年の間は中絶し人口の連續性を缺く事となる。即ち財政統計の地方比較を行ふに當り國勢調査人口が必ずしも適當でない事と、更に國勢調査人口には五年又は十年の中絶の行はれる事を注意せねばならぬ。

財政統計の地方比較の問題の一としてヨストックは「立地論」を掲げてゐる。「立地論」は原始産業に最も多くの適用あり其他の産業については應用性が乏しいのであるが、有力なる學說たるを失はない。従つて財政統計の地方比較を行ふに當つても之を看過してはならない。

財政統計の地方比較には其他の問題が横たはつてゐるが、茲には本研究の緒をつける意味に於て簡單なる解説を試みたのである。